

⑩前回審査を受けて提出したアクションプラン

日本ジオパーク委員会からの指摘事項に関する改善策について

秩父まるとジオパーク推進協議会

今後の課題、改善すべき点	改善策	実施体制・予算	スケジュール
<p>1 首都圏からのアクセスの利便性を活かし、ジオパークとしての秩父を首都圏の観光業者や観光ガイド等に積極的に宣伝するとともに、外から来た人に秩父がジオパークであることがわかるよう、ガイドブックや案内マップを充実させ、駅周辺など目立つ場所に置いてもらうよう働きかける必要がある。</p>	<p>積極的に都内等で開催されるキャンペーン活動に出向き「ジオパーク」をPRするとともに、地域内に懸垂幕や横断幕、のぼり旗、ポスター等を設置、貼付している。</p> <p>当協議会事務局を西武秩父駅前の秩父観光情報館内におきマップ等を置く他、同駅及び秩父鉄道秩父駅にジオパークコーナーを既に設け展示した。</p>	<p>当協議会の事務局を秩父市役所産業観光部観光課内においているためジオパークに特化することなく、ロケーション（映画やテレビドラマなどの撮影の誘致活動）、芝桜まつりへの誘客活動、アニメの舞台設定のモデルとして取り上げられた秩父への誘いなどと連動して行うことで、予算的にもスタッフ的にも観光課職員、観光協会などと連携しての事業実施が可能。</p>	<p>平成23年度から実施。 今後も引き続き継続予定。</p>
<p>2 ジオパークの拠点となる施設が小鹿野町と長瀬町の2ヶ所のみで、秩父市と他の町には整備されていない。ジオパークの拠点についての基本方針を確立し、拠点の整備計画を早急に立案する必要がある。</p>	<p>長瀬町の埼玉県立自然の博物館や小鹿野町のおがの化石館にジオパークの色を濃くしてコア施設とする。</p> <p>また、サテライト的な施設として各町の歴史民俗資料館や観光関連施設などにジオパークコーナーを設ける。既に、長瀬町観光協会2Fギャラリーや秩父市浦山民俗資料館では「ジオパーク特別展」を実施した。</p>	<p>当協議会の運営委員に各市町の教育委員会から選出された職員がいるので、今後も特別展示やジオパークコーナーの設置などを検討する。</p> <p>平成23年度の12月補正予算で当協議会として、展示ケース、展示パネルを購入済み。</p>	<p>平成24年度から当協議会所有の展示ケース、パネルボード等を活用し各市町で企画展等を開催予定。</p> <p>秩父地域地場産業振興センターでは、「ジオサイト解説パネル展」及び「動画で見るジオパーク秩父」を実施予定。</p>
<p>3 秩父市の和銅宝物館の施設老朽化が進んでおり、テコ入れが必要である。</p>	<p>従前からの懸案事項。</p> <p>地元には和銅保勝会という組織があるので、この組織に一任するが当協議会としてもジオパーク活動の一環として関わってまいりたい。</p>	<p>和銅保勝会の実施計画による。</p>	<p>未定であるが、今後も引き続き協議予定。</p>
<p>4 大地の守り人を育む、ジオ学習の聖地」というキャッチコピーは「ジオパーク」のキャッチフレーズとして適当かどうか疑問がある。教育はジオパークの重要な一要素である。しかし、ジオパークでは「楽しみながら気付く、学ぶ」を重視しており、多くの人にとって楽しさを感じにくい「学習」という単語をキャッチコピーに使うことが妥当かどうかは議論の余地がある。ジオツアーは学習会ではないことを考慮してキャッチコピーを再考することが望ましい。また、「学習」という視点のみでガイドがジオツアーを行っているとしたら、改善が必要である。</p>	<p>当協議会としても「学ぶが楽しい」をテーマに学習会ではなく「学習観光」に力点を置いている。</p> <p>既に、大手旅行会社から「学習観光ツアー」の要請があり、実績も増えてきている。</p> <p>校外学習や移動教室の舞台として、当ジオパークをフィールドとしてもらうよう、パンフレットやDVDを用意した。</p> <p>本年度も埼玉県の観光課と連携し中国の教育旅行関係者にプレゼン等を行ったが、引き続き「学習観光」の誘致に努めてまいりたい。</p> <p>キャッチフレーズについては、上記の展開を含め、当協議会で見直しの可否を含め検討してまいりたい。</p>	<p>平成23年度の12月補正予算で「動画で見るジオパーク秩父」を制作。</p>	<p>「動画で見るジオパーク秩父」は本年度3月中にホームページにアップロード。</p> <p>平成24年度から、主に埼玉県内の小中学校、東京都内の姉妹友好都市を中心に、教育旅行関係各社に営業していく予定。</p>

今後の課題、改善すべき点	改善策	実施体制・予算	スケジュール
<p>5 「地質学発祥の地」ということだが、その説明が素人にわかりにくい。また、「秩父古生層」についても、専門用語を使わずに、その変遷をわかりやすく説明してほしい。「地質学」を学習する場所がジオパークだと誤解されないよう、その発祥の地で来た人たちにどのようにワクワクしてもらうかの工夫が求められる。秩父や日本列島の成り立ちの考え方の変遷を、専門書に基づいた地質学の変遷ではなく、中高の教科書の記載など多くの人が知っている内容の変遷で紹介するなどにより、秩父ならではのセールスポイントがアピールできる。これらについて、パンフレットの説明案やこれらのセールスポイントを取り込んだ説明板案、あるいはガイドの説明案などといった形で具体化していくことが求められる。また、これらの説明は、日々のガイドなどのなかで改善が図られていくような仕組みが望ましい。</p>	<p>教育委員等との意見交換会などを通して児童・生徒の副読本としてジオパークがわかるものを作成していくよう働きかける。</p> <p>また、(仮称)「ジオパーク秩父Q&A」のようなコーナーを当協議会のHP上に作成して、ジオパーク秩父のトリビアなども掲載してまいりたい。</p> <p>さらに、子どもたちがジオパークに興味を持つきっかけとして「秩父ジオかるた」や「秩父ジオ川柳」を作成していく。</p>	<p>本年度中に教育委員の皆さんとの意見交換会を設け秩父ならではのセールスポイントについて協議していく。</p> <p>「秩父ジオかるた」については、事務局で作成済み。</p> <p>「秩父ジオ川柳」については、フォトコンサートの企画の中で、多くの方から募ってまいりたい。</p> <p>予算については、当協議会の事業費で計上済み。</p>	<p>平成24年度以降、指摘事項について改善できるよう取組んでいくが、日々のジオパーク活動の中でも常に、セールスポイントを取り込んだ説明などといった形で具体化してまいりたい。</p>
<p>6 ジオガイドをさらに増やすとともに、ジオツアー参加者のすそ野を広げる努力を続け、一般市民への浸透を図る必要がある。専門家的な目線でのジオサイトだけでなく、ラインくだりや秩父鉄道など、大勢の観光客が楽しむ場所でのジオガイドを行うなど、秩父に遊びに来た人にジオの楽しみ方を知ってもらうことが求められる。</p>	<p>生涯学習活動と連携させ、「郷土学習講座」や「ちちぶ学セミナー」等でジオパーク講座を取り入れる。</p> <p>また、芸術文化振興の観点からジオパークの見どころを描いたり、写真を撮ったりするイベントを企画する。</p> <p>ジオツアーの企画のなかで、ジオ鉄、ジオ舟を活用したものを考案する。</p>	<p>公民館等の事業に当協議会が講師派遣などで協力していく。</p> <p>また、主催事業として「フォトコンサート」を実施する。</p> <p>既に、当協議会の構成団体の特徴を活かしてジオウォーキングなどの企画運営を実施しているが、このメニューの中に鉄道やライン下りなどを交えたツアーを構築する。</p> <p>さらに、ジオポイントガイドなど、大きなウォーキングイベントの際にコアタイムを設けて行うなど、既存のイベントの活用によりジオパークを普及啓発する。</p> <p>主催事業に伴う予算については、当協議会の事業費で計上済み。</p>	<p>平成24年度から、郷土学習講座、ちちぶ学セミナーにジオパークの講座を開講。町内会等の地域からもジオパーク展の要請もある。</p> <p>また、当協議会を構成するNPO団体から「ジオ舟」の企画が既に提案されている。</p> <p>本年4月に行う「秩父いってんべえウォーク」(約1200人参加)で秩父の中位段丘を解説するジオワンポイント講座を開講準備中。</p>

今後の課題、改善すべき点	改善策	実施体制・予算	スケジュール
<p>7]今後リピーターを増やしていくためにも、ガイド者自身が他のジオパークを訪問するなどにより、客観的に地域を見直す機会を持ってもらうとともに、相手の立場に立った説明に心掛けること。特に、都心に近い秩父ジオパークでは、ジオからの視点ではなく、普通の観光客に楽しさが伝わるような取り組みが求められる。ジオパークでは、それぞれの場所だけでなく、全国各地のジオパークについても紹介することが望ましい。</p>	<p>既に、南アルプス、糸魚川のジオパークを訪れ研修をしているが、今後も引き続き、日本ジオパークの仲間の地域との交流を図り指摘にあるよう、楽しさが伝わるガイドを心がけるとともに、全国のジオパークを紹介してまいりたい。</p>	<p>当協議会の予算に毎年、研修費用を組み込む。 また、全国のジオパークにも積極的に訪れ交流を図る。</p>	<p>平成 23 年度に第 1 回 JGN 全国研修会で、全国のジオパークの逸品を「ジオ端会議」で紹介。 今後も、引き続きジオパーク全体の PR をするとともに、ガイドのスキルアップに努める。</p>
<p>8]外国からの観光客に理解してもらうため、総括看板や博物館の展示、案内版、ガイドブック、パンフレットなどの英語を始めとする多言語化を図る。その際、中学生レベルを前提にする日本語より、さらに分かりやすく小学校 6 年生レベルで作ること。</p>	<p>外国人誘客施策と関連して、ジオパークとしても外国人対応として、看板やパンフレットの多言語化を進める。</p>	<p>当ジオパークのエリアと同一の地域（秩父市・横瀬町・皆野町・長瀬町・小鹿野町）で秩父地域おもてなし観光公社を設立する。 この公社で、外国人観光客の誘客や、滞在型観光の推進を主要な施策としているため、この取組とうまく連携していく。 財源的には、ちちぶ定住自立圏の枠組みで展開。</p>	<p>平成 24 年度の事業で観光看板のリニューアルを計画中</p>
<p>9]ジオサイトの中で急な斜面や滑りやすい場所などには、手すりを設けたり危険箇所の表示を徹底するなど、安全面に配慮した整備を行ってほしい。</p>	<p>多くの方が安全にジオサイトを見学しやすいよう配慮していく。 各市町に散在するジオサイトで危険な箇所等を調査し、各市町に当協議会として働きかけする。 また、保全していくことも働きかけていく。</p>	<p>整備に関する予算については、各市町対応。</p>	<p>平成 23 年度に中に「秩父華厳の滝」に降りる遊歩道を木質チップにより整備した。 具体的な整備予定はないが、本年度から「自然の博物館」。「おがの化石館」は、空調のリニューアルや木質化など、来訪者に優しい施設づくりが進んでいるので、引き続き来訪者の立場にたった整備に協力していく。</p>